

# 万葉集

はじめての

日本に現存する  
最古の和歌集「万葉集」を  
わかりやすく紹介します

[vol.62]

## 和と漢の融合

今回は新元号の「令和」にちなみ、  
出典となった『万葉集』の「梅花の歌  
三十二首」のうち、序文の筆者と考  
えられている大伴旅人の歌につい  
てご紹介します。



わが園に 梅の花散る ひさかたの  
天より雪の 流れ来るかも

訳

わが庭に梅の花が散る。天涯の果てから雪が流れ来るよ。

大伴旅人 卷五（八二二番歌）

「令和」の出典となったのは、歌の  
由来を記す「序文」という漢文の中  
の一節です。この序文は、書家とし  
て著名な中国の王羲之の「蘭亭序」  
の影響があると言われています。永  
和九（三五四）年三月三日、会稽山の  
北の蘭亭に文人たちが集い、曲水の  
宴が催されました。その時に詠まれ  
た詩に付された序文が「蘭亭序」で  
す。「梅花の歌」の序文には「蘭亭序」  
と似ている文言もありますが、旅人  
は「蘭亭序」の文章を模倣したので  
はなく、志ある文人たちが集い、理  
想の宴を開いたというその理念を  
受け継ぎました。それが、「梅花の  
歌」が詠まれた宴です。

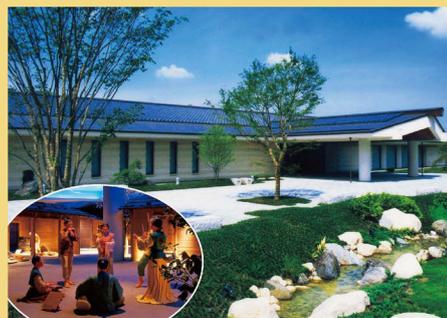
その宴の主人が、大伴旅人です。

旅人の歌は、天から雪が降ってき  
たかと思まがうような、純白の梅  
の花の散る美景を捉えた歌で、こ  
の歌は序文とも対応しています。  
序文には、中国には「落梅の篇」と

いう詩があるといい、それに擬え  
て我々は「短詠」（短歌）を作ろう、  
とあります。この「落梅の篇」とは、  
古代中国の「梅花落」という楽府詩  
を指していると言われています。  
「梅花落」は、辺境に身を置く者が  
正月の梅花を見て故郷や家族を思  
うという内容で、都から離れた大  
宰府の官人たちの境遇と通じるも  
のがあります。漢語では「落」は「散  
る」という意味であり、「梅の花散  
る」はすなわち「梅花落」を翻訳し  
た言葉であると考えられます。旅  
人はこの「梅花落」の詩を理解し、  
さらに蘭亭のような理想の宴を、  
日本で実現させたのです。

和と漢の融合によって新しい文  
学を模索したのが、大伴旅人という  
歌人でした。私たちも異文化を排除  
するのではなく、「和」することに  
よって新しい時代を創造していけ  
たらと願っています。

（本文 万葉文化館 大谷歩）



☎0744-54-1850  
所 明日香村飛鳥10  
時 10時～17時30分 休 月曜

プレゼントがあります。詳しくはP27へ。

新元号「令和」ゆかりの資料を  
6/30(日)まで特別展示中!

「万葉集」を中心に古代文化に関  
する総合文化施設として、調査・研  
究・展示、図書・情報サービスなどの  
機能を備えています。  
万葉文化館の地下に眠る飛鳥池  
工房遺跡の発掘調査の成果や復原  
展示なども行っています。

## 万葉の世界へタイムスリップ! 万葉文化館

万葉ちゃんの

# つぶやき

和歌に関連  
するものを  
紹介するよ!



万葉ちゃん